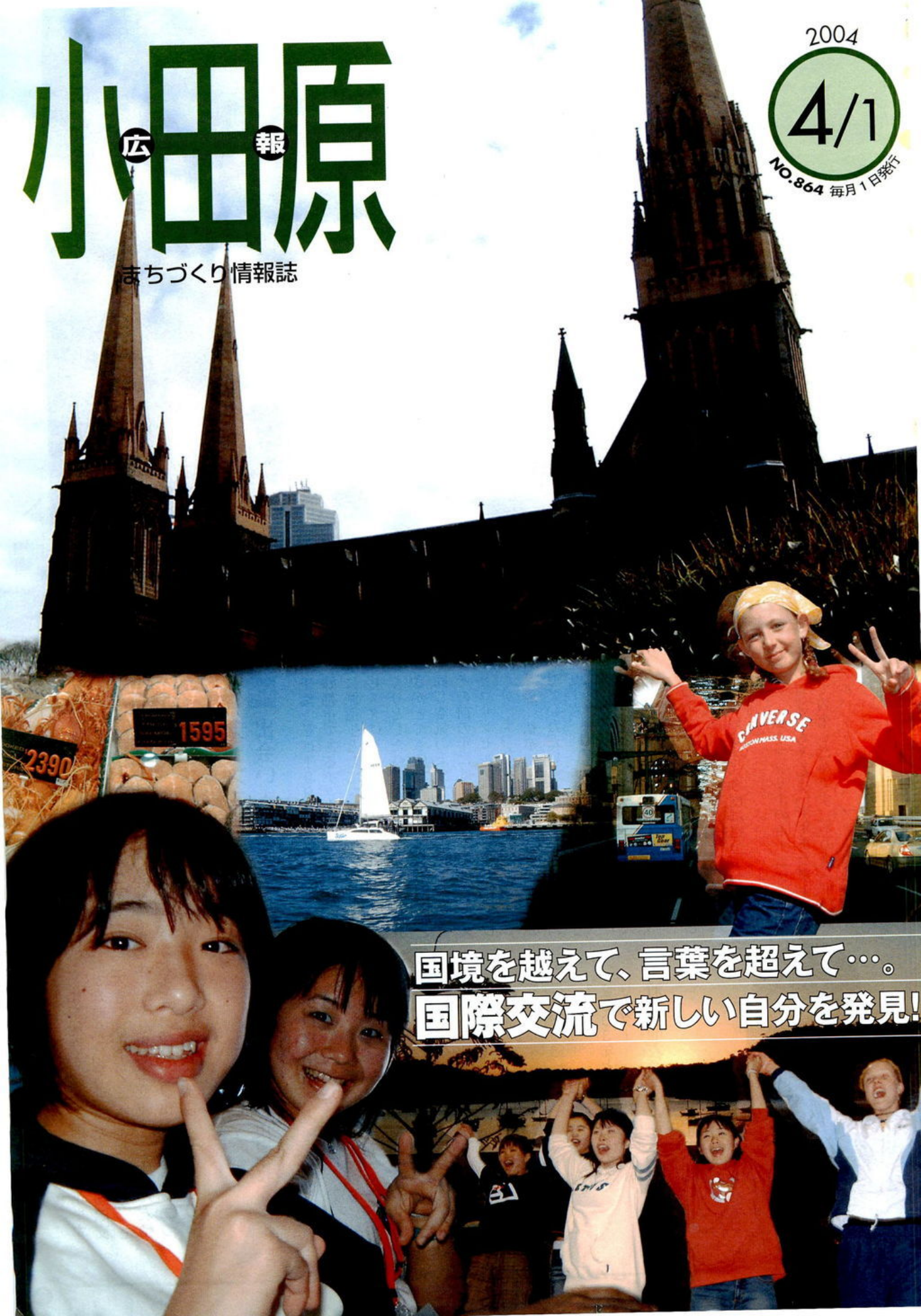
小田原 広報

まちづくり情報誌

2004
4/1
NO.864 毎月1日発行



国境を越えて、言葉を超えて…。
国際交流で新しい自分を発見!

大陸で学んだ、大切なこと。

ときめき国際学校・チュラビスタ市青年交流に参加して

世界平和が叫ばれる今、国やことば、文化や習慣を超えた国際交流がますます大事になっています。市では、新たな時代を担う若者たちが、国際交流をきっかけに自分を見つめなおし、大きくはばたく一歩となるよう、さまざまな事業を行っています。その中でも、毎年の交流でどんどん友情の輪を広げている、ときめき国際学校とチュラビスタ市青年交流の二つを紹介しましょう。

問市民交流課 ☎33-1703

INTERVIEW

チャンスを逃さず、出会い・大切に

千葉　私は1999年に小田原市の姉妹都市であるチュラビスタ市との交流に派遣生として参加しました。チュラビスタは本当に自然が豊かでした。ゆっくりとした時間の流れと、人々の温かさがとても印象的で、なぜか小田原と同じ空気のようなものを感じました。その前の年には同じアメリカのネバダとロサンゼルスに行く機会がありましたが、まったく印象は違いましたね。

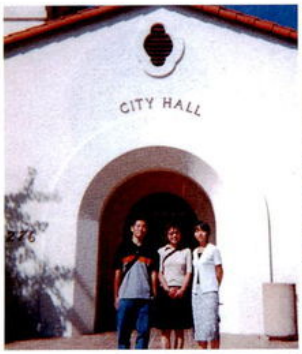
渡辺　私がときめき国際学校で行かせていただいたオーストラリアのマンリーも、同じような印象でした。とてもきれいなすばらしいところでした。

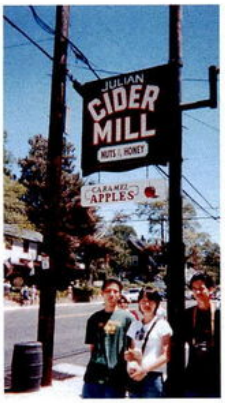
木村　私はずっと外国に行ってみたくて、ときめき国際学校に参加したのです。正直、最初はどこの国でもよかったのですが、もうマンリーのことが忘れられなくて、絶対にまた行きたいと思っています。今度は自分でお金をためて。(笑)

渡辺　私もマンリーのホームステイ先のおばあちゃんに「来年また来ます」って約束したんです。その後一生懸命アルバイトをして、マンリーに行けるくらいのお金を貯めました。自分でもびっくりするほど頑張ったんですよ。

2003年ときめき国際学校
サブリーダー
木村 真里緒(まりお)さん

2003年ときめき国際学校
リーダー
渡辺 亜衣美(あいみ)さん





CHULA VISTA
チュラビスタ（アメリカ合衆国カリフォルニア州）

MANLY
マンリー（オーストラリア）

本当におばあちゃんや皆にもう一度会いたいんです！

木村　マンリーに行って一番感じたことは、国や言葉は違っても、人は皆同じなんだということ。笑顔があれば言葉なんか通じなくても仲良くなれる。とにかく通じなくても話してみることだ、ということを学びました。今、英語を勉強するのがとても楽しいんです。

千葉　私も、チュラビスタ市で日系移民コミュニティーや合気道クラブなど見て、人のつながりを感じました。アメリカにもこうして日本に何か関わりのある人がたくさんいます。海外経験をしてから、外国だけでなく、自分の身の回りの文化や習慣を再確認するようになりました。これからもこの二つの事業は続いていくようですから一人でも多くの人に参加して欲しいですね。絶対に行くべきだと思います！自分が一回り大きくなったような気がします。

渡辺　私もそう思います。実は派遣の時期に、部活動などで忙しかったのですが、あの時行かなければ、絶対に後悔してました。

千葉　申し込みは男性がいつも少ないようですので、男性のかたはぜひどうぞ！

木村　女性もOKですよ！（笑）

彼らの話にもあったように、外国を見たことで、逆に自分の住んでいるまちのことを知ったり、視野が広がったりと、とても有意義な時間を過ごすことができたようです。

ぜひ多くのかたに参加していただいて、いろいろな学校、国、年代の友達と一緒に過ごすことによって新しい自分を発見してほしいですね。

1999年チュラビスタ市派遣生
千葉 淳一 さん

募集

ときめき国際学校

募集　4月15日㈭から

市では、平成3年度に開催された「ときめき小田原夢まつり」国際交流祭をきっかけに、市内の中・高校生を対象として、オーストラリア・マンリー市と毎夏青少年交流を行っています。13年間で519人の皆さんがマンリー市に友達の輪を広げています。

小田原で2週間の交流をした後、オーストラリアに出発。マンリー市の中・高校生の家庭にホームステイをしながら、オーストラリアの生活を体験します。

※参加者、市民スタッフ、ホストファミリーを募集します。

チュラビスタ市青年交流

募集　4月15日㈭から

市は昭和56年11月8日にアメリカ・チュラビスタ市と姉妹都市の提携を結びました。青年交流事業は、姉妹都市提携を契機に設立された小田原海外市民交流会が主催する事業で、今まで20回の交流を行ってきました。7月にチュラビスタ市から4人の青年がやってきます。小田原で3週間の交流を経て、いよいよ彼らと一緒にチュラビスタ市へ向かいます。

※参加者、ホストファミリーを募集します。

詳しい内容は、「広報おだわらいふ」4月15日号でお知らせします。

介護サービスの心の橋渡しを

～介護相談員を募集～

介護保険施設などでサービスにかかる不満や要望を、利用者に代わって事業者側に伝える介護相談員。市では、介護サービスの質の向上の担い手として、介護相談員を募集します。

問高齢介護課　☎33１８６４

介護相談員の役割

平成16年4月現在、市に登録している介護相談員は9人。派遣の申し出のあった特別養護老人ホームや老人保健施設などを毎月2回程度訪問し、気軽な雰囲気の中で利用者の話をお聞きします。

介護サービスを利用しているかたの中には、忙しい職員に対する遠慮や、「こんなことを言ったら嫌がられるのではないか」という思いから、要望や希望、疑問や不満を誰にも言えず我慢している人も少なくありません。

また、サービスを提供する側のかたも、利用者のナマの声を聞くことができれば、サービス改善に役立てることができます。

そこで、介護相談員は、利用者のお話の中に出てくる素朴な要望などを大切にし、施設の職員に建設的な提言を行います。施設は、この提言を受けて、実現可能な範囲で改善策を探り、介護サービスの質的向上を図ります。

介護相談員は、「より豊かなサービス」を実現するために、利用者と施設の橋渡しの役割を担っているのです。

家族や友人のような存在に

介護相談員の受け入れ施設の一つである潤生園の西山八重子さんはこう話します。

「最初はやはり利用者の皆さんが緊張された面も見受けられましたね。でも、顔なじみになるにつれてそれもなくなり、今では訪問を心待ちにされています。歌やおしゃべりを通じての活動風景はとても和やかですし、また、介護サービス以外のことにも熱心に耳を傾けてくれるので皆さん満足されているようです。

介護相談員さんからのお話を聞くと、私たちの小さな努力でサービスの改善に結びつけられるような要望が多く、利用者一人一人と丁寧にお話しする姿勢や介護を見直す気づきの場としても勉強させてもらっています。

今後も今までと同じように利用者の輪の中に入り、家族や友人が訪ねてきたような雰囲気で利用者の意見や要望をくみ取ってほしいと思います。」

介護相談員の募集

対象　自動車などで施設などを訪問できる市内在住の3人程度（選考による）

※選考されたかたには、専門研修を受講していただきます。

申込　4月1日㈭から30日㈮までに、高齢介護課窓口で配布する応募用紙に必要事項を書いて、郵送または持参

※勤務条件など詳しくはお問い合わせください。

〒250-8555
小田原市役所高齢介護課高齢社会担当

平成15年度

3月補正予算の概要

平成15年度3月補正予算は、一般会計に5億5,171万4千円を追加、特別会計は35億3,039万1千円を減額、企業会計は4億6,000万円を追加しました。この結果、全会計の予算額は、1,492億6,305万3千円となりました。

問財政課　☎33-1311

●一般会計補正予算（5億5,171万4千円追加）
●競輪事業特別会計補正予算（38億5,000万円減額）
●天守閣事業特別会計補正予算（増減額なし）
●国民健康保険事業特別会計補正予算
（1億6,725万9千円追加）
●老人保健医療事業特別会計補正予算
（1億8,357万6千円追加）
●片浦地区簡易水道事業特別会計補正予算
（1,385万6千円追加）
●介護保険事業特別会計補正予算（4,949万1千円減額）
●宿泊等施設事業特別会計補正予算（440万9千円追加）
●病院事業会計補正予算（4億6,000万円追加）

補正予算の主な内容は、次のとおりです。

●地下街施設整備基金の積み立て
地下街施設の整備に要する経費に充てるため、地下街施設整備基金に1億2,000万円を積み立てました。

●身体障害者日常生活用具給付費等の増額
不足が見込まれる身体障害者日常生活用具給付費、重度障害者住宅設備改良費及び進行性筋萎縮症者療養等給付委託費を増額しました。

●生活保護扶助費の増額
不足が見込まれる生活保護扶助費を増額しました。

●健康診査委託料の増額
不足が見込まれる健康診査委託料を増額しました。

●曽我小学校区放課後児童クラブの開設準備費の計上
平成16年度から曽我小学校に放課後児童クラブを開設するための準備費を計上しました。

●文化財緊急発掘調査費の増額
不足が見込まれる文化財緊急発掘調査費を増額しました。

なお、寄付者一覧のとおりご寄付をいただきましたので、そのご意思を生かせるように、各基金に積み立てました。

【寄付者一覧】（敬称略）

◆ふるさと文化基金寄付金（合計29万2,847円）
神奈川県小品盆栽連合会／小田原セレモニーホール協力会／コールめんどり・コールキャロット／匿名1件

◆防災対策基金寄付金（合計17万1,884円）
小田原交通安全協会取扱分／小田原郵便局取扱分／静岡中央銀行取扱分／スルガ銀行取扱分／横浜銀行取扱分／静岡銀行取扱分／小田原東特定郵便局取扱分／さがみ信用金庫取扱分／小田原商工会議所取扱分／社団法人小田原青色申告会／小田原第一信用組合取扱分／小田原東郵便局取扱分／小田原西特定郵便局取扱分／小田原市農業協同組合取扱分／中央三井信託銀行取扱分／小田原卸商業団地簡易郵便局取扱分／西さがみ建設協同組合

◆社会福祉基金寄付金（合計81万1,254円）
蘭友会／小田原市陶芸同好会／小田原盆栽愛好会／相洋福島県人会／倫理研究所西湘地区／裏千家淡交会小田原支部／豊嶋シズ枝／株式会社クボタ1課親睦会／米田朝実・食屋でん助お客様一同／財団法人小原流小田原支部／全印刷局労働組合小田原支部青年部／株式会社ダイナシティ・ロビンソン百貨店小田原／有限会社丸専酒井商店／東京海上火災保険株式会社小田原支店

◆ふるさとみどり基金寄付金（合計12万4,303円）
小田原市消費者の会／小田原市農業まつり運営委員会／小田原経営研究会

小田原彩時記

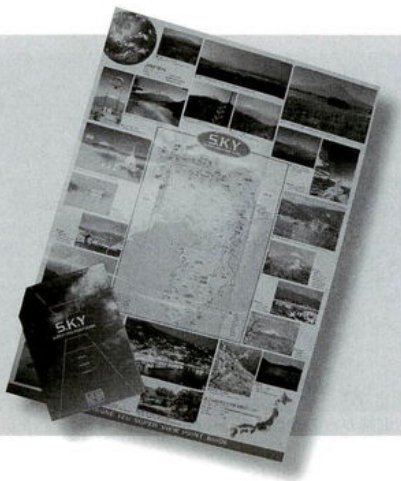
こんな絶景 見たことない！
～SKY圏で「絶景ポイントガイド」～

問観光課　☎33-1523

富士箱根伊豆交流圏（SKY圏）市町村ネットワーク会議観光部会では、24市町村が参加して山梨・静岡・神奈川三県の「絶景ポイントガイド」を作成しました。

富士を取り巻く市町村自慢の絶景ポイントを地図付きで紹介。この地域の魅力を広くPRし、観光客のかたの回遊性を高めます。

ガイドブックは、小田原駅観光案内所などで配布しています。



PRIOメール　連載8号

政策総合研究所通信

問政策総合研究所　☎33-1315

小田原は歴史・文化・産業・自然・人など、都市としてバランスよくまとまったまちで、研究の場としても最適です。そこで政策総合研究所では、大学コミッションを立ち上げ、大学の調査研究活動などの支援を行っています。
今回は、慶應義塾大学の研究活動を紹介します。

デジタル散歩でまちづくり
4月10日(土)14時～17時

慶應義塾大学SFC研究コンソーシアム「都市情報化と公共空間に関する研究」プロジェクトは、都市情報化をテーマとしたシンポジウムを開催します。

GPS(地球測位システム)、GIS(地理情報システム)、CG(コンピュータグラフィックス)、WEB観光ナビゲーションなどのソフト技術が、実際のまちづくりや観光政策にどのように活かせるかを、都市づくりの専門家らが報告します。

シンポジウムでは、CGを使った本陣の復元、GPS付携帯電話を使っての回遊行動調査の紹介やパネルディスカッションで、歴史資源、観光、交通などについてデジタルを切り口にまちづくりの可能性を探ります。

内容

14時10分～
「歴史都市小田原の復元」
旧東海道小田原宿の本陣や街並みなどをCGを使って当時の姿を復元紹介するなど、歴史的資源の活用のあり方を提起します(慶應大　三宅理一教授)。

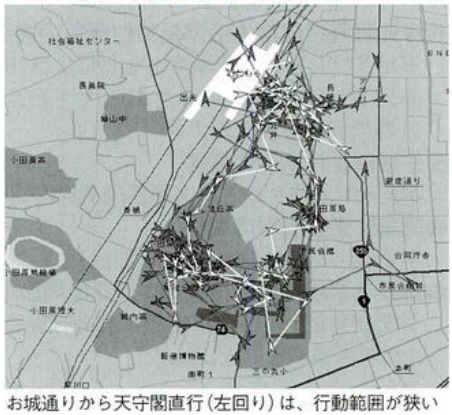
14時40分～
「神奈川の観光政策　小田原～箱根～湘南～鎌倉」
携帯ナビ機能による地域の問題解決、駐車場の空き状況など即時的な情報発信による観光政策の可能性を示します(慶應大　古谷知之専任講師)。

15時10分～
「若い世代は小田原をどう歩くか?」
大学生などの世代が徒歩、自転車、バスで小田原のまちをどう動くか、経路や滞留時間など、GPS携帯を使った行動実験のデータ分析(右図参照)から、小田原の中心市街地の活性化戦略を検討します(慶應大　山田雅夫助教授ほか)。

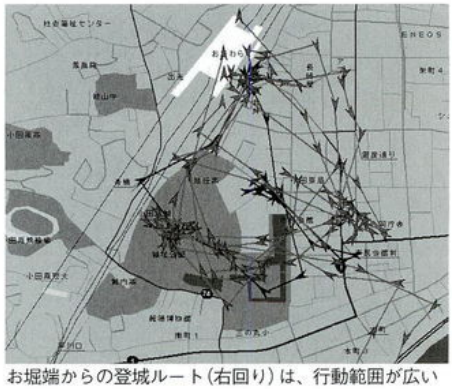
15時40分～
パネルディスカッション　「情報化時代のまちづくり」
司会　芝浦工大　大内浩教授
パネリスト　京都造形芸術大　竹村真一教授、リクルート・月刊HOUSING　藤井繁子編集長、小田原ボランティアガイド協会　山田昇会長

場所　小田原商工会議所大ホール
定員　70人(無料)・当日席若干有り
申込　慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス三宅研究室(藤田)
FAX　(0466)49-3516
メール　afujita@sfc.keio.ac.jp

小田原駅からの回遊性の違い



お城通りから天守閣直行(左回り)は、行動範囲が狭い



お堀端からの登城ルート(右回り)は、行動範囲が広い

小田原　大学コミッション

大学コミッションは、担当教員の指導下で行われる大学や大学院の授業やゼミのフィールド演習、調査・研究活動などを支援するための窓口です。

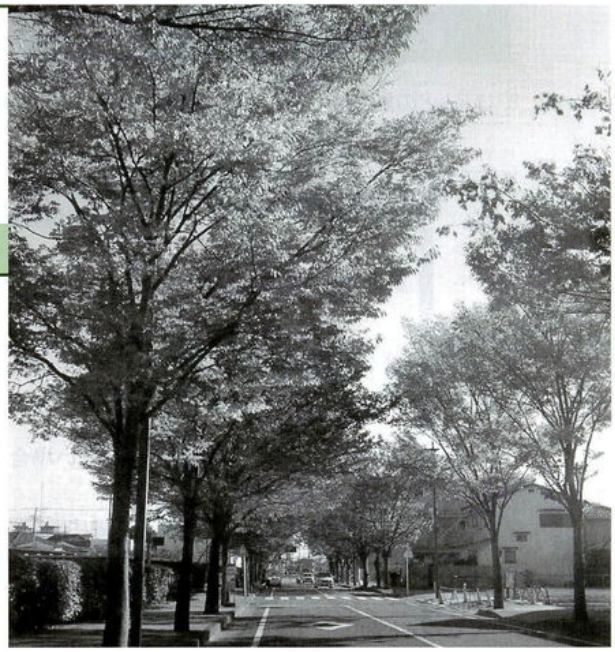
行政内の調整・情報提供のほか、テーマにより地域・団体との調整機能を果たし、研究調査を容易にします。

また、その成果を市民とともに共有し、大学との交流を小田原らしい市民主体のまちづくりに還元することを目的としています。

政策総合研究所のホームページ
URL
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/prio/
メール
prio@city.odawara.kanagawa.jp

4月1日㈭、『市民のまちづくり支援窓口』がスタートします

問都市総務課　☎33-1307



市では、快適な居住環境の保全に向けた地区計画や建築協定などの市民活動を支援するため、「市民のまちづくり支援窓口」を開設します。

地区の特性や、そこに住まわれているかたがたのニーズに応じた住みよいまちづくりを進めるためには、建築基準法や都市計画法などで定められた基本ルールに加え、建築協定制度や地区計画制度などを活用し、地域にあったきめ細かいルールをつくることも一つの方法です。

「市民のまちづくり支援窓口」では、市民のみなさんの自主的なまちづくりへの取組みを積極的に支援するために、まちのルールづくりについてご相談をお受けします。「調和のとれたまちなみにしたい」「戸建住宅中心の地区なのであらかじめ高い建物が建たないようにしたい」といった身近なまちづくりについて気軽にご相談ください。地域にあったルールを考えましょう。

なお、まちづくり相談は、市役所６階都市総務課の「市民のまちづくり支援窓口」でお受けするとともに、ＥメールやＦＡＸでもお受けいたします。

FAX33-1579

Ｅメール　toshiso@city.odawara.kanagawa.jp

組織・機構が変わります

問職員課　☎33-1241

平成16年度のスタートにあわせて、市役所の組織・機構が変わります。

新設	観光課 観光まちづくり担当	自然、文化、歴史、産業などを活用しながら、新しい観光施策を推進します。	☎33-1523
変更	高齢介護課 介護保険管理担当→高齢介護課 介護保険相談担当	高齢者の介護や福祉サービスなどに関する相談全般に対応します。	☎33-1875
変更	観光課 観光担当→観光課 総務担当	名称を変更しますが、従来の観光事業全般を担当します。	☎33-1521
変更	消防署 指導係→消防署 管理調査係	火災原因調査の体制強化を図ります。	☎49-4433
変更	水道局 工務課 計画整備担当→水道局 工務課 計画担当	水道施設や送配水管などの計画を担当します。	☎41-1222
変更	水道局 工務課 受託工事担当→水道局 工務課 整備担当	水道施設や送配水管などの工事を担当します。	☎41-1227
廃止	広域交流拠点整備課 推進担当	小田原駅東西自由連絡通路（アークロード）の完成に伴い、その整備にあたっていた担当を廃止します。	
統合	図書館 図書担当及び市史編さん担当→図書館 図書担当	市史編さん業務の縮減に伴い担当を統合します。	☎24-1055㈹

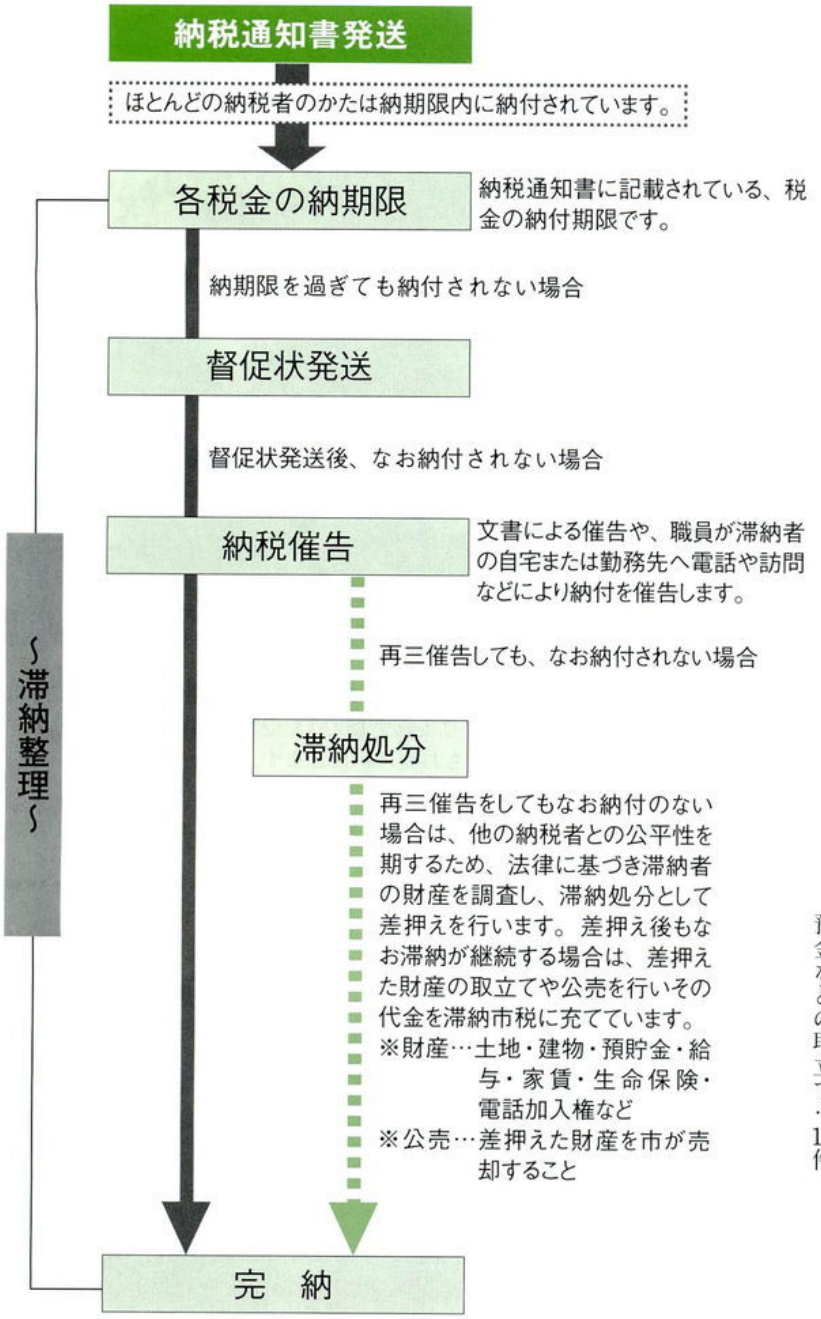
4月6日㈫は城の日。小田原城天守閣入場者先着30人に「週刊名城をゆく小田原城」をプレゼントします（天守閣入場料は有料です）。

問小田原城天守閣　☎23-1373

税は社会の会費です

市税（市民税、固定資産税、軽自動車税など）は、そのかたの所得に応じて負担していただくものです。そのため市では、納期限までに納付されず滞納となった市税について、早期に納付いただけるよう、法律の手続にしたがって滞納整理に取り組んでいます。

問収納課　☎33１３４５



差押えの執行状況

平成15年度は、本年2月までに、土地・建物、預金、売掛金、生命保険、電話加入権について、合計33件の差押えを行いました。

●取立て・公売の実施状況

過去に差押えた財産については、随時取立てや公売を行っています。

なお、電話加入権は、県小田原県税事務所と共同で公売を行っています。

（平成15年度の2月末までの実績）

電話加入権：6本公売

預金などの取立て：10件

市長随想

還暦

文　小澤良明

年のことはあまり言いたくないのだが、何を隠そう昨年還暦を迎えた。還暦とは読んで字の如し、六十年たって暦がぐるっと廻ることを言うのだろうが、古の人は本当に上手いことを言う。確かに今年の正月を私は数年ぶりに身も心も清々しく気力横溢して全く常と違って迎えた。暦が新しく始まって、私の新しい人生が始まった。今年私は生まれ変わった。まさに私は一歳を迎えたのである。

本能寺の変で火炎の中、織田信長が舞い謡ったという〽人生五十年、化転の内に較ぶれば、夢、幻の如くなり…、ではないが何百年も人生五十年、で来た筈なのに、いつの間にか、〽村の渡しの船頭さんは、今年六十のお爺さん…になり、現代では定年六十歳が、三歳も五歳も延び始めてすらいる。

昔にくらべるとみんな見た目も若いし、精神的にも年令の七掛け、と長洲元県知事もことあるごとに言っていた。人生の幅広い蓄積は〝智恵〟を脳のひだの奥深くに沈潜させ、人間として成長するに止まるところを知らず、ともいう。いまや還暦は熟年のスタート台なのである。

昨年秋、中学校時代の全クラス合同の同窓会が初めて持たれた。赤いチャンチャンコだけは

滞納をなくすために
～さまざまな取り組み～

市では、法律に定められた滞納整理を効果的に行うため、さまざまな取り組みを行っています。

○「滞納整理強化月間」を設定し、夜間や休日の電話催告、各戸を訪問して納税の催告を行っています。

○強化月間のときなどには、収納窓口の時間延長や休日の窓口開設など、納税相談や納付機会の拡大を行っています。

※4・5月は滞納整理強化月間にあたります。

窓口時間延長や休日窓口開設については、「広報おだわらいふ」4月15日号でお知らせします。5月以降についても、随時お知らせしますので、ぜひご利用ください。

小田原市市税の滞納に対する特別措置に関する条例
～滞納審査会～

本市では、悪質な滞納者に対して行政サービスの制限や氏名公表を盛り込んだ、全国初の条例を平成12年から施行しています。現在まで、条例に基づく氏名公表はありませんが、条例に基づく滞納審査会は毎年開催しており、個々の滞納事案について、研究検討を行い、それらの意見を参考に滞納整理を進めています。

また、滞納者に対する行政サービスを制限することで、すでに納税されているかたとの公平を保ち、滞納の抑制を図っています。

制限している行政サービスや許認可の例

○市営住宅入居資格　○入札参加登録申請　○低公害車購入費補助金　○住宅用太陽光発電施設整備費補助金　など

納め忘れ・うっかりのないように

市民税や固定資産税・都市計画税、軽自動車税の納期限は、多少のずれはありますが毎年ほぼ同じです。

納税通知書に同封される「納税ごよみ」（今年度は緑色）をご覧になり、納期限までに納付してください。

口座振替制度

口座振替は市税について納期限の日に指定の銀行口座から自動で引き落としを行うものです。

納め忘れもなく、納付の手間も省けるのでたいへん便利です。

【口座振替のできる金融機関】

○横浜銀行
○スルガ銀行
○みずほ銀行
○りそな銀行
○静岡銀行
○三井住友銀行
○静岡中央銀行
○中央三井信託銀行
○さがみ信用金庫
○中南信用金庫
○中央労働金庫
○小田原第一信用組合
○小田原市農業協同組合
○神奈川県信用農業協同組合連合会
○郵便局

口座振替のお申し込みは、市内各金融機関などでお願いします！

やめようと言い合って、当日二百人余が集った。〝還暦〟を祝って大勢の旧友と遅くまで語り合った。団塊の世代が大挙して少し後に続いてくる、私達はそんな世代である。入試も就職もそろそろ大変な競走になりかかっていた。しかし、貧しくはあったがまだまだどこかのんびりしていて楽しい想い出の方が多い中学時代だった。

人生の第一ステージを離れることに不安を訴えたり、体調が思わしくない、と悩みを打ち明ける友がいると思えば、「さぁ一軌が外れた」「さぁ第二の青春だ」と意気軒昂に、仕事に趣味に夢を語る友人達、と人生さまざま模様の一夕であった。〝還暦〟という言葉の重い意味を改めて考えさせられた。そんなみんなを見て挨拶の中で私は「来年は一歳、初心に帰って一から始めよう！」と檄をとばした。

折しも長い景気低迷のトンネルを抜けてようやく回復基調への歩みを始めたかの日本経済。自主・自立、荒波の分権時代に、新たな一歩を踏み出す私への大きな贈り物になりそうな予感がする。

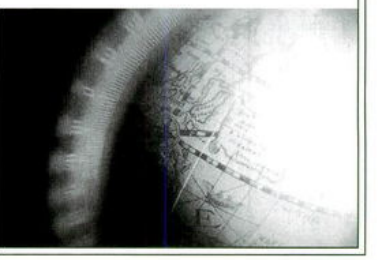
シリーズ：静かなる教育論議

「心の健康・心の教育」掲示板

子どもの生活に密接したテーマを設定し、市民の皆さんのご意見や、さまざまな統計資料によって子どもたちの見えない「心」の姿を見つめ直す新シリーズ「心の健康・心の教育」掲示板。今回はその第1回目です。

問教育総務課　☎33-1671

シリーズ パート1



市で進めている「静かなる教育論議」にこれまでにお寄せいただいたご意見に、次のようなものがありました。

●今の子どもたちはあいさつもできないし、元気もなければやる気もない。自分の気持ちも相手に言えない子が多いと思う。

●学校では今、心の問題や問題行動を出す子が増えています。どのような判断や援助が必要か迷うことが多いので、現場の子どもをみてもらいながら指導をしてもらえるスーパーバイザーをおいていただきたい。

●心の健康について、不安を感じる。あまりに視野のせまい生活をしていると、心が不健康になると思う。

市では、平成13年度に文部科学省の「健康教育総合推進モデル事業」の委嘱を受け、泉中学校区（泉中学校、富水小学校、東富水小学校）をモデル校区に指定し、平成15年度までこの事業に取り組んできました。その中で、子どもたちの心の健康と生活習慣の実態をとらえるために、「心の健康アンケート」を実施しました。

その結果、子どもに疲れやすい傾向があること、イライラ感が高いこと、自分に自信をもてず、将来やってみたいことがない子どもが多いこと、さらに、毎日朝食をとる習慣が不十分で、悩みのある子どもが学年の上がるにつれて漸増していることなどがわかりました。

この中学校区では、この調査結果をもとに、学校・家庭・地域の連携を図りながら、「あいさつ運動」をより一層推進しました。

また児童・生徒、保護者、教職員の「心の健康」のサポーターとして、スクールカウンセラーなどの活用が図られてきました。

市では今後、こうした取り組みを充実させていきたいと考えています。

小田原彩時記

小澤市長、子どもたちとおおいに語る！

問学校教育課　☎33-1684

酒匂中学校でのようす

小澤市長がゲストティーチャーとして、小・中学校の教壇に立ちました。

以前から子どもたちと直接ふれあうチャンスを望んでいた市長は、酒匂中の2年生の教壇に立ち、映画監督になろうという夢を持っていたこと、周りの人たちに請われて若くして市議会議員になったことなど、自分の経歴を語りました。

授業の最後に「夢を持って自分の道を歩んでください」とのメッセージを送ると、生徒たちは真剣に聞き入っていました。授業の後は給食の配膳を手伝い、一緒に食べました。久野小学校では、サインをねだられる場面もありました。子どもたちには、とても貴重な時間となったことでしょう。

生ごみを有効利用！子どもたちの新しい挑戦

報徳小学校では、業務用生ごみ処理器を利用して、給食の調理場から出る生ごみの処理や、調理前の生ごみを児童が家庭から持ち込んで堆肥づくりをしています。

問環境総務課　☎33147(1)

生ごみ処理器を学校で

市では、ごみの減量化と資源化対策の一環として、家庭用生ごみ処理器の設置を進めています。家庭などで生ごみ処理器を設置したかたには、その費用の一部を補助しています。また、報徳小学校に設置した業務用生ごみ処理器を利用して家庭から出る生ごみも資源化する取り組みを始めました。

給食調理場から出る生ごみを処理するほか、調理前の生ごみを児童が家庭から持ち込んで堆肥をつくっています。

缶で生ごみを持ってくると「出しやすい、重みで袋が切れない、洗ってまた使える、においが出ない」などの効果があることが分かりました。

このことで、燃せるごみの40％を占めている生ごみの資源化が進み、家庭や地域の循環型社会意識を高め合ったり、地域の自治会などとの地域コミュニティが進むことなどの効果も望めます。

調理前の生ごみを

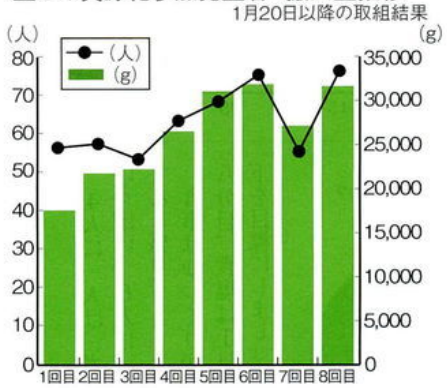
P・T・Aや地元自治会の皆さん、教職員のかたなどの協力のもと始めた実験でしたが、家庭の生ごみの持込方法を考えていく中では、「児童が生ごみを持ち込むことは難しいのではないか」などの不安もありました。そこで12月の土・日曜日に限定し、親子で持ち込むことにしました。そのときの参加者は総勢28組の親子。持ってきた生ごみは調理前の生ごみやみかんの皮など水分をほとんど含んでいないきれいなものでした。この結果をふまえ、毎週火・金曜日に調理前の生ごみ（野菜の切れはしや果物の皮など）を児童が持ってくることにしました。

新しい挑戦に向けて

今では、参加者もずいぶんと増え、持ちよった人たちの間に新しいコミュニケーションも生まれてきました。「分別生ごみの資源化をして野菜や花を育てましょう！地球にやさしいお手伝いをしましょう」を合い言葉に、今日も報徳小学校では、みんな元気に堆肥づくりに励んでいます。

市では、この報徳小学校の事例を踏まえながら、業務用生ごみ処理器を利用した生ごみを減量・資源化する取り組みを進めていきます。

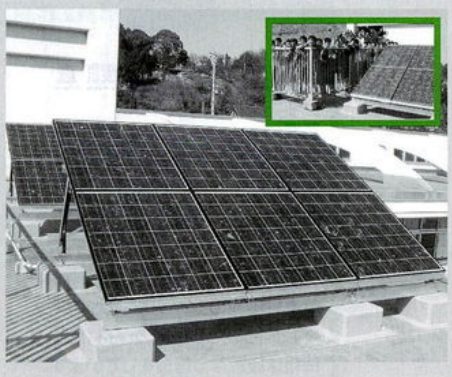
お世話をする人が休みで少なかったとき、他の人が手伝ってくれたり、ごみの正しい入れ場所を教えてあげたりと、さまざまな交流も生まれました。



暮らしの中に新エネルギーのあるまち
太陽光発電システムが大窪小学校に

問環境保全課　☎33-1481

太陽エネルギーを利用して発電するシステム（最大出力1.8kw）が大窪小学校の校舎屋上に設置されました。地球温暖化などの環境問題への取り組みとして、太陽や風力などの自然エネルギーをはじめとする新エネルギーの導入が求められています。この発電システムはソフトエネルギープロジェクト（NPO法人）が設置したもので、地域における環境教育に活躍が期待されます。



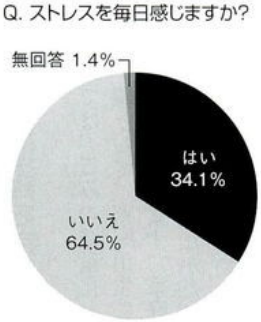
明日のあなたは、元気？それとも…？危険なあなたに、小田原式健康法を伝授します。

本市の40歳から65歳未満のかたを対象にコンピュータ健康診査を行いました。これは、国民健康保険被保険者の中から無作為に抽出したかたに、生活習慣に係る質問項目に回答いただき、健康状態や生活習慣に応じた健康づくりのアドバイスを提示したものです。約7割のかたが「健康」であると回答しているものの、集計結果から、生活習慣を改めたいと思っているかたが数多くいることがわかりました。そこで、あなたに小田原式健康法をお伝えします。

問保険課 ☎33-1835 健康づくり課 ☎47-0820

34%も、ストレスを毎日感じている

ストレスをため込まないためには、運動や趣味を大事にし、気分転換を図ることが有効です。



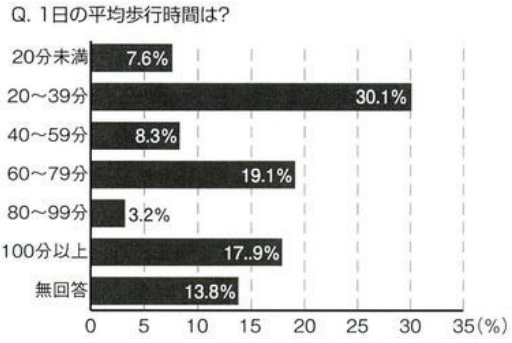
小田原式ストレス解消法

①ストレスを感じたら、春の一夜城にハイキング。深呼吸して、足柄平野を見渡せば、気分そう快、元気もりもりの自分に気が付くはずです。

②相模湾から打ち寄せる黒潮に向かって大声で叫ぼう！何があってもこだわらず、プラス思考で考えられます。

意外と歩かない小田原人。20分以内が8%も

1日の平均歩数は7,217歩。あと1,000歩(10分)増やすことを目標に！



小田原式ウォーキング

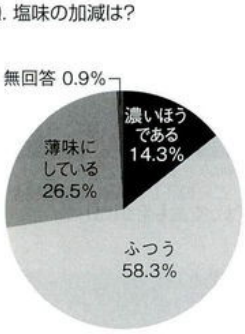
①今は生命が息吹く季節。お友達を誘って、辻村植物公園やフラワーガーデンに出向き、木や花の名前を調べて回ると、いつのまにか心地よい汗で歩数アップ。

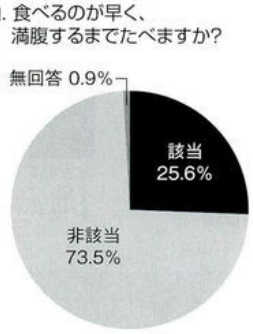
②まちには、いたるところに美しい階段や坂道があります。アークロードに出かけるもよし。渋滞を避けて、ウォーキングでショッピングするもよし。

食生活を変えよう

4人に一人は、ガツガツと腹いっぱい。6人に一人は、塩味てんこ盛り。

食事はゆっくり30分以上で腹八分目、食塩は1日10グラム以下を目標にしましょう。





小田原式食事マナー

①郷土には海の幸、山の幸がいっぱいです。

どれもこれもと、すぐほおばらずに、一つひとつを味わうようにゆっくりと食べましょう。

小田原の幸は、どれも味わい深いものばかりです。

②カレーライスや漬け物に、一口食べて味を確かめることなく、習慣でしょうゆやソースをドボドボとかけてしまうことはないですか。

味付けは料理人の主張です。「身体に愛情」「料理人に感謝の気持ち」これが小田原人のエチケット。

コンピュータ健康診査

時期	平成15年10月～平成16年1月
発送数	国民健康保険の40歳以上65歳未満の被保険者4,499人
回収数	2,648（回収率58.9%）
有効回答数	2,642（58.7%）

白紙の場合は有効回答に含めない。
厚生労働省の10/10国庫補助事業
※診査にあたり秘密の保持など、個人情報は厳重なる管理をしています。

城下町大使からの便り

～小宮孝泰さんロンドンで文化交流～

KOMIYA in London

俳優として舞台などで活躍している城下町大使の小宮孝泰さんが、文化庁の第1回文化交流使としてロンドンに滞在中です。現地で日本文化を理解してもらうためのワークショップや日本でも好評を博した一人芝居「接見」の上演など、多忙な毎日を過ごす小宮さんから、市民の皆さんにお便りが届きました。

40代半ばになったころから〝役者としてもう一つスイッチを入れ替えたい〟と演劇の本場ロンドンに留学を目指していた。準備をしつつ、その思いを知人に吹聴していたら、それが文化庁に伝わったのか、私に白羽の矢が立ったのである。まさに言ってみるもんである。

文化交流使の主な仕事は、まず落語のワークショップだ。扇子や手ぬぐいの小道具としての使い方や着物の着方も教える。これは小田原高校に私が落語研究会を作って以来の経験が役に立った。すでに2月7日にテルフォードという町で行った作業だが、これは実に楽しかった。落語の説明や私の落語の実演（英語と日本語で）と体験指導も含めて、たった一日で新作落語まで作ってしまおうという大胆な企画だったが、参加者に演劇担当の先生が多かったので皆とても積極的だった。最終的には独創的な爆笑落語がたくさん出来上がった。一方的に表現を見せられるより、一緒に考え咀嚼してみることをイギリス人は好むらしい。文化の交流とはこういうことを言うんだと私が勉強させられた。

もう一つは本業の一人芝居の英語上演だ。英訳するのも英語のせりふを覚えるのも苦労したが、私なりの手応えは感じている。今回は名門の王立演劇アカデミーの劇場で上演する幸運にも恵まれた。もちろん俳優学校にも通っている。聞き取れない英語の即興の練習が多いので頓珍漢なこともしでかしているが、イギリス人に混じって日本のおじさん俳優は頑張っている。むしろここでも彼らの積極性に後押しされている感じだ。中で一度だけ酔っ払いの即興芝居だけは我ながらうまくいった。酔っ払いは言葉の壁を越え易いことを知った。喜劇人としてしっかり笑いも取った。「欲望という名の電車」という芝居の一場面では、スタンレーという野生の男の代表の役を選んでやっている。日本では私には絶対に回って来ない役だ。どちらにしたって、恥をかいてこその役者修行である。

この国のあちこちで感じたが、イギリス人は物をはっきり言う。我々も思ったことはきちんと言って、それから実行するべきではなかろうか。たくさんの幸運や助けが重なったとはいえ、今回だって私の小さな思いを口に出したことから始まっている。自分で言うのもなんだが〝思えば叶う〟ものなのである。

いつか小田原のかたには、ロンドンで見聞きしたそんな楽しいお土産話を披露しようと思っている。

そばを食べる仕草を指導する小宮さん

羽根尾貝塚出土品が神奈川県指定重要文化財に

市内羽根尾に所在する羽根尾貝塚は、平成10～11年に発掘調査が行われましたが、ここから発見された縄文時代前期出土品が、2月10日付けで県指定重要文化財（考古資料）に指定されました。今回指定となった出土品は、縄文土器や石器のほかに、弓・櫂・漆器・結歯式竪櫛などの木製品、釣針・髪飾り・垂飾りなどの骨角器など総数458点です。

羽根尾貝塚は、水分と有機質を多く含んだ泥炭層と呼ばれる土層であったため、通常の遺跡では腐ってしまう木製品や骨角器などが豊富に残されていました。このため、動物や魚の骨、木の実など縄文人の食したものや漆塗りの木製品、編籠、骨や角でつくられた道具などを当時のまま目の当たりにすることができたのです。これによって、縄文時代の人々が豊富な食糧を獲得し、高度な技術を持って生活していたことを私たちは知ることができました。まさに、羽根尾貝塚の出土遺物は、「縄文時代のタイムカプセル」と呼べるもので、日本全国に誇れる貴重な発見となりました。

なお、今回の県重要文化財指定を記念して、羽根尾貝塚出土品の特別公開とシンポジウムを今秋に開く予定です。詳しくは後日お知らせします。

問文化財保護課 ☎33-1717

関山式土器：約5,500年前の南関東に分布した在地の土器。
複雑で多様な縄目文様が特徴です。

漆塗容器：木をくりぬいて口縁を波状に作った浅鉢に、赤と黒の漆が塗られています。5,500年前の縄文時代に、このような技術があったということは大変な驚きです。

骨角器：イノシシ・シカの骨やシカの角で作られた道具。左はヤスなどの刺突具、右は釣針の製作中の製品から完成品まで。

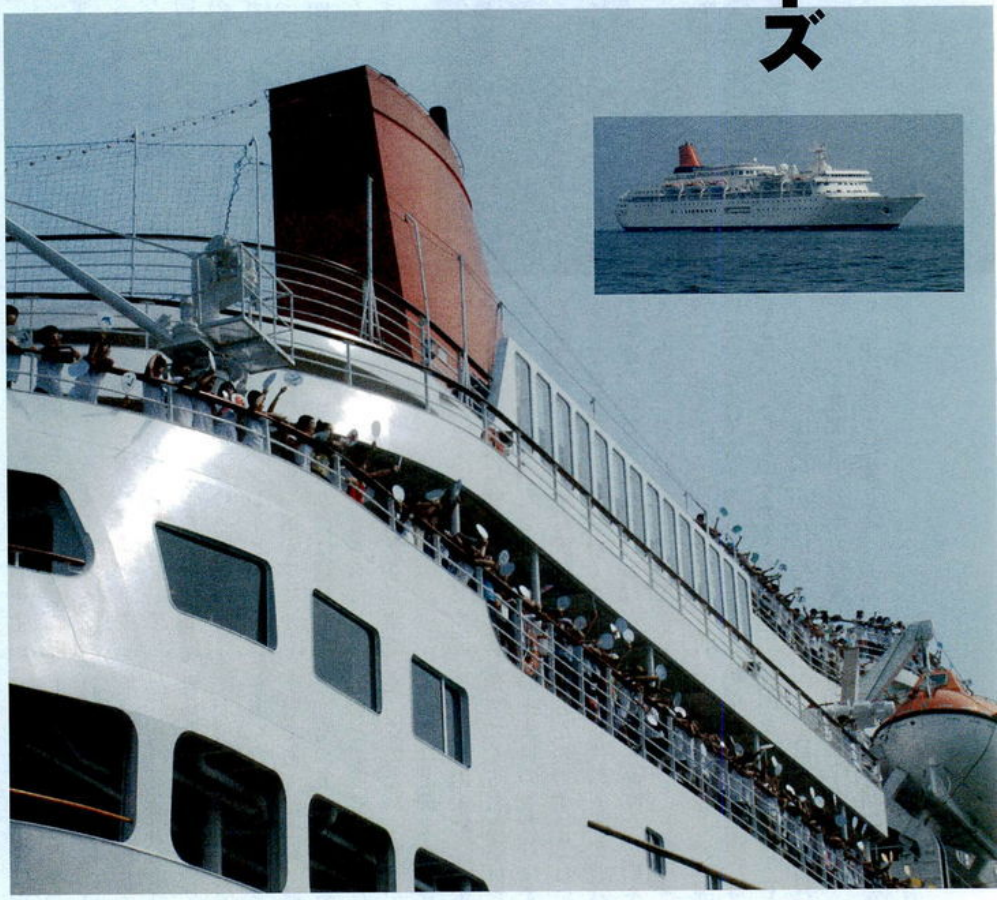
さぁ大海原へ出発だ！

第11回 少年少女オーシャンクルーズ参加者募集

小田原の未来を担う子どもたちの夢と希望を乗せた「少年少女オーシャンクルーズ～きらめきシンドバッド～」が今年も出航します。大自然とふれあい、ステキな体験と楽しい思い出を作りましょう。

参加者は「にっぽん丸」に乗るだけでなく、事前・事後研修やツーデーマーチへの参加、文化祭などと1年を通して活動します。多くの出会いとたくさんの友だちが、君を待っています！

申込 青少年課 ☎33-1723



手旗教室

にっぽん丸の乗務員から手旗信号の基本的な通信方法を教えてもらいました。結構難しく、みんな真剣に取り組んでいました。

ナプキン教室

テーブルマナーを楽しく体験する方法として、ナプキンを折って王冠などを作りました。でき上がった王冠をみんなでかぶって、ハイ・チーズ!

ロープワーク

船上生活やキャンプなどで役に立つロープの結び方（もやい結びや一重つぎなど）を楽しみながらみんなで覚えました。

船上運動会（ウォーターパニック&ウォーターバトル）

ウォーターパニックは、たらいから洗面器で水をくみ、みんなで頭上を通して後方へ渡していきます。ウォーターバトルは、水鉄砲でみんなの頭についた的を狙います。みんなびしょびしょになりながら、大いに盛り上がっていました。

昨年、記念すべき第10回を迎えた「少年少女オーシャンクルーズ～きらめきシンドバッド～」は、参加者も5,500人を数え、世代や年齢、回を超えた交流があります。今年も同窓会や見送りイベントを行いますので、みなさんぜひ参加してください！

今年の本研修は、8月22日㈰～24日㈫です。

募集内容

シンドバッド第11期生

1年を通した活動に積極的に参加できるシンドバッド（小学5・6年生）を募集します。

対象 市内に在住・在学の小学5・6年生524人

申込 4月20日㈫から5月6日㈭まで（消印有効）に、はがきで

※募集要項・申し込みはがきは、4月中旬に各学校で配ります。

オーシャンクルーズ・サポーター（高校生）

1年を通してまじめに取り組んでくれる、シンドバッド（小学生）のまとめ役のサポーターを募集します。

対象 市内に在住・在学の高校生25人

申込 電話で。4月2日㈮～12日㈪の8時30分～17時（土曜・日曜は除く）

面接日 4月18日㈰

サムライシンドバッド

5月3日㈷に行われる「第40回北條五代祭り」に、三代北條氏康隊として参加してくれるサムライシンドバッドを募集します。

対象 市内に在住・在学の中学生・高校生25人

申込 電話で。4月5日㈪から先着順

輝く小田原人

小田原の海に思いをはせる「銀幕のスタァ」

伊達 正三郎さん

俳優
（小田原市在住）

新東宝ニューフェイスとして映画界で大活躍した伊達さん。小田原の海を見つめる瞳に映るものは、やはり銀幕の世界だった。

弁護士を目指し、法政大学に通い勉学に励んでいた伊達さん。あるとき友人から「新東宝がニューフェイスを募集しているぞ!申し込んでみろよ」と促され、軽い気持ちで申し込んだ。ところがなんと6,000人の中からたった5人の狭き門をくぐり抜け、新東宝第5期ニューフェイスに選ばれた。

その後デビューを果たした伊達さんは、いきなり映画2本に主演し、次々に主演作品の話が舞い込んできた。当時はまちを歩けば人々が振り返り後を追ってくる、まさにアイドル状態だったという。「なんとも不思議な人生の分岐点だった」。伊達さんは当時を振り返る。

今、伊達さんは、舞台やデビュー当時から学んだ日本舞踊、ナレーションなどの仕事をこなしている。

また尺八の腕前は相当なもので、10年程前にはポール牧さんの舞台で阿藤快さんらとともに共演。小田原市民会館の舞台でも尺八を披露している。なんと使用している尺八は自作である。ときどきテレビのバラエティ番組への出演依頼も来るが、本人は苦手と話す。

「やっぱり役者なんだなぁ。これからもずっと役者。これしかないんですね。今は映画から遠ざかっていますが、また映画の話があったら、二つ返事で快諾するでしょうね」。夢を語る少年のようなまなざしで笑う。

大好きな小田原の海岸線を、伊達さんは毎日歩いている。お目当ては酒匂の松並木。「この松はずっと昔から小田原のまちを見てきた。そう思うとロマンを感じるんですよね」。松に手を触れながら、遠い昔の小田原に思いをはせる。これが伊達さんの日課である。

伊達さんの銀幕での復活を待つ人は、きっと多いに違いない。

映画「怪談鏡ケ渕」のポスター（1959年）から。灯篭を持っている中央の人物が伊達さん。

警察のキャンペーンポスター

1935年生まれ。「ダテショー」の愛称で親しまれる。「怪談鏡ケ渕」（1959年）で初主演。若山富三郎さんに殺陣の指導を仰ぎ、時代劇映画にも数多くの作品を残す。テレビでは「ジャイアントロボ」の東支部長、「宇宙鉄人キョーダイン」の丸井大佐といえば知っている人も多いのでは。ドラマ「あんみつ姫」では小泉今日子さんとも共演するなど多彩な役をこなす。

小田原駅を歩く

おだわらの匂いと気配りがただよう玄関口

おだわら近未来日記
にぎわいと人に寄り添うまちづくり
～全国初のユニバーサルデザイン～

アークロードが開通し、西口広場が再整備される小田原駅周辺では、引き続き東口広場の整備が始まります。これから小田原駅周辺は大きく生まれ変わってきます。このコーナーでは4回にわたって、小田原駅周辺のまちづくりを紹介します。ひと足早く、完成後の小田原駅周辺を一緒に歩いてみましょう。第1回は、小田原駅と東西広場を歩きます。

電車からホームに降り立つと、音声案内がエレベーターやエスカレーターに誘導してくれます。ホームからアークロード、東西の駅前広場に至るまで、車いす利用者や視覚障害者、高齢者や赤ちゃん連れのかたなどにもやさしいつくり。そう。ここは、全国初の※ユニバーサルデザインを実現した駅なのです。

改札を出て見上げると、巨大小田原ちょうちんや小田原を題材にした陶板レリーフ、ステンドグラスが。アークロード開通時に市民の会から寄贈されたものです。木製のいすや植栽も施され、「やすらぎ」の空間になっています。富士箱根伊豆の玄関口として、小田原らしい街の息吹と気配りが訪れる人を歓迎しています。

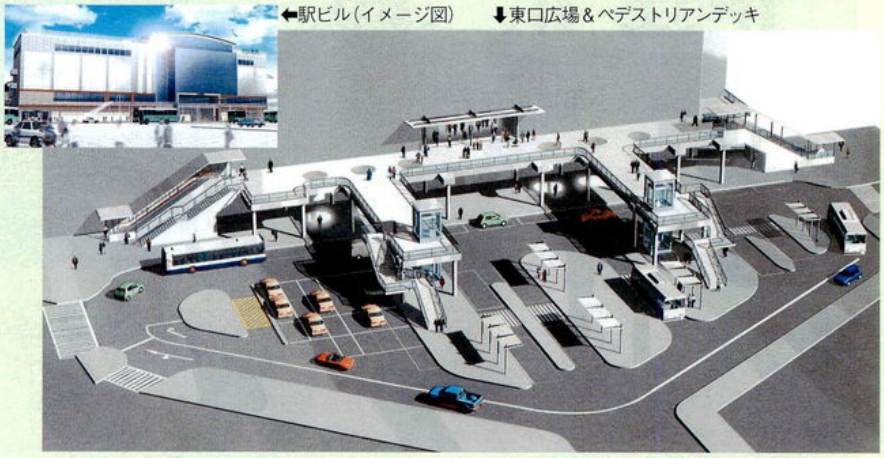
西口の駅前広場には、新鮮な驚きを覚えます。車道との段差が無くなり、低床バスが運行され、家族の送迎も専用乗降場所ができて一層便利になりました。歩道には屋根があるので、雨の日でも安心です。県合同庁舎、警察署といった行政機関が集中する市役所周辺へはバス路線も新設されました。新しいお店が次々とオープンし、活気にあふれています。

アークロードを東口に向かうと、2階建てのデッキ広場（人工地盤）に続きます。東口広場はデッキ・地平部・地下街と3層構造になり、歩車道が分離されています。時計台は、小田原城を臨む待ち合わせの名所となっています。エレベーターやエスカレーターもあり、街中やバス乗り場へは、デッキからが便利で安全です。

アークロードから入れるJR東日本の駅ビルは、ファッションのお店やレストランなど素敵なお店が並び、若い女性に人気です。駅ビルの買い物客は、地下で接続された「アミーおだちか」や商店街へと流れていきます。駅に始まる小田原の賑わいと人に寄り添うまちづくりは、街の中へと広がっていきます。

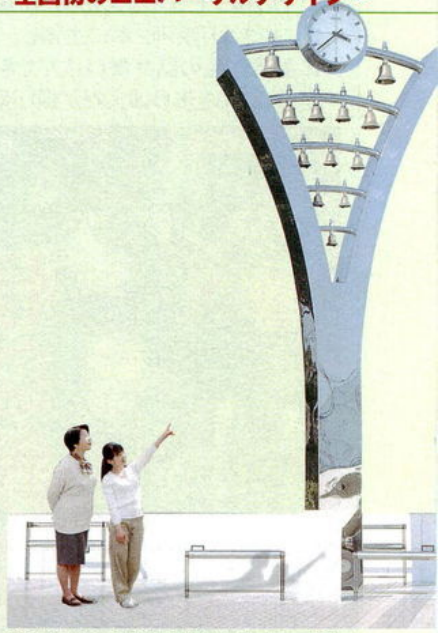
※障害の有無、年齢、性別、体格にかかわらず、すべての人にとって利用しやすい製品、建物、空間などをデザインすること。

←駅ビル（イメージ図）　↓東口広場＆ペデストリアンデッキ



アークロード秘話

「本当にやる気ですか？」。それは、平成5年のJR東日本とのトップ会談で決断された。長い間閉塞状況にあった自由通路の計画が、ついに動きだした瞬間である。しかし、長引く景気低迷の中、大事業を始めるには良い環境ではなかった。鉄道5社に一つのテーブルについてもらうことから始まり、市議会や近隣市町の同意、国県の財政支援など様々な問題を解決し、ようやく着工にいたるのはそれから7年後のことである。
（市長随想から）



時計台は東口広場に設置されるイメージです。

次回の「おだわら近未来日記」は、小田原駅から小田原城へと一緒に歩いてみましょう。

※このコーナーでは、今後設置される予定の施設なども含めて紹介しています。

発行●小田原市　市役所総合案内　☎0465 33 1302
編集●広報広聴室　〒250-8555　小田原市荻窪300番地
広報おだわらは、資源保護のため古紙100%の再生紙を使用しています。